

自己紹介

この度寺島善一先生からお誘いをいただき、スポーツと平和を考えるユネスコクラブへ加入させていただいた小山吉明です。長野で中学校の保健体育教師をしています。と言っても今年は定年退職を過ぎて再任用の3年目で、そろそろ教師生活も引退に近づいてきています。昨年出版された寺島先生の『評伝 孫基禎』を読ませていただき、孫基禎さんの生涯について、そして寺島先生のスポーツと平和への願いに感銘を受けました。

私は1998年の長野冬季オリンピック以来、毎年体育理論としてのオリンピックの授業を続けてきていて、その中で孫さんのベルリンオリンピックでの表彰式のことをとりあげてきました。オリンピック憲章の「オリンピック競技大会は個人種目または団体種目の選手間の競争であり、国家間の競争ではない」を学ばせていく上での悲しい事例です。オリンピックイヤーの今年1月、信濃毎日新聞で「金メダリスト孫基禎」という特集が連載されたのを機に、記者の方を通して寺島先生とのつながりを持たせていただきました。

『評伝 孫基禎』が2020年東京大会前に出版されたことの意義は大きいと思います。実は私もオリンピックに関わる実践を含めた自著を東京大会前、定年退職前に出したいと考えていて、2016年に『体育で学校を変えたい』（創文企画）として出版することができました。思いは同じです。私が教員になった頃にはすでに「スポーツと平和を考える会」が立ち上げられ、そして1998年の長野冬季大会の頃も孫さんはご健在で、寺島先生たちと一緒に活動されていたのです。不勉強の私はそれを知らず、自己流で五輪教育を模索していました。もっと早くからつながりを作ることができていたら、私の教員人生の幅ももっと広がっていたのではないかと今になって後悔しています。

私の所属している体育教師のサークル学校体育研究同志会では、運動文化の継承と発展を体育科教育の狙いとしています。コロナ禍で1年延びた東京大会ですが、継承すべき理想の部分と発展のために改めていかなければならない影の部分があります。毎年続けてきていた私の五輪の授業は、3月2日からの突然の休校により、昨年度分だけはその授業ができずに来てしまっています。コロナの終息を願い、そして来年の開催に向けて、どんな授業をすべきか改めて考えていきたいと思っています。

今は大変なときですが、みなさんくれぐれもお体に気をつけていただいて健康を保持し、来年こそオリンピックイヤーが迎えられるよう、頑張りましょう。

これからよろしくお願い致します。

小山吉明